

悠久への歩み
先ず以て、謹んで聖寿の萬歳と皇室の弥栄を御祈念申し上げます。平素は当会諸活動に対し先輩諸賢を始め関係各位より御高配を賜っておりますこと衷心より篤く御礼申し上げます。

昨年は、今上陛下御即位二十年を寿ぐ佳節の年であり、奉祝の赤誠に日本列島が包まれました。また神宮におかれましても、平成三十年に迎えます第六十二回

御挨拶
鳥取県神道青年会
会長 大澤祥之



鳥取神青通信

第17号

発行元
鳥取県神道青年会
編集
中部青年神職会

更には、国難とも言うべき時にあつて神道興隆と美しき故郷の護持に邁進すべく、殊に関係団体との連携を強化し、神職子弟に対する教化や交流他、全県青年神職が等しく意識価値観を共有しつつ、中長期的には津々浦々の神社が栄えていくことを念頭に活動を推進して参ります。

私達青年神職は原点に立ち返り、自己研鑽に励み、若者らしい迅速且つ実直な実行力に磨きをかけ、先輩諸賢から守り伝えられるこの惟神の道を真心として実践躬行、若き炎となつて活動に活動して参ります。また、虚心坦懐の精神を忘れることなる、広域的視野に起つて、一意専心会員がひとつとなつて、時代に即応して活動できる集団でありたいもの

として参りましたことは、会員一同の意識高揚、自己啓発と頭に描きながら且つ青年らしい事業を企画運営致すべく勘案致しておるところで御座います。

何卒御協力の程宜しくお願い申し上げます。

の御遷宮に向けて、諸祭行事が恙無く斎行され、国民の気運も愈々増幅されております。かかる中にあります。かかることで私達青年神職も積極的な活動を開催しております。平成二十一年度は、「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」、また式年遷宮奉祝行事や啓発事業に際して、神道青年全国協議会の同志と共に縷々参加協力して参りましたことは、会員一同の意識高揚、自己啓発として、神道青年全国協議会の國柄や伝統文化を次世代へと伝承すべく、これらを念頭に描きながら且つ青年らしい事業を企画運営致すべく勘案致しておるところで御座います。

田母神氏の講話を聴講であり、「二年近く前から少しずつ準備をしていったな」と考へながら研修会へと臨みました。

岡山県が開催地となりました。前年は鳥取県が開催地であり、「二年近く前から少しずつ準備をしていったな」と考へながら研修会へと臨みました。

第四十三回
中國地区氏子青年
神道青年合同研修会
田母神氏の講話を聴講
平成二十二年六月五日、六日に開催された中国五県氏青神青合同研修会、今年は岡山県が開催地となりました。前年は鳥取県が開催地

岡山県神道青年協議会会長、小川浩太郎氏の力強いあいさつで幕開けた研修会でした。「ここに集つた我々は若き侍である」という言葉、まさに青年たちの2日間の研修会の始まりにふさわしいものであると感じました。この度の研修会にて、一番楽しみにし、同時に強烈なインパクトを受けたのが第二十九代航空幕僚長田母神俊雄



於 ホテルオーラ岡山

氏の講話でした。田母神氏は「危険人物の田母神です」と自虐的かつ皮肉とユーモアをこめたあいさつで講演を始められ、時間の過ぎるのがあつという間でした。「日本という国はおかしな国だ。愛國心があると言うと更迭されるともつと詳しく聞いてみたいと思うばかりでした。

その他に興味深いお話を聞いて、「諸外国と交渉をしたりするり、何か発言をしたりする際、国が核を保有しているかどうかで発言力が全然ちがう。」というものがありました。我々は学校の社会科で非核三原則を学習して育つてきています。これが平和になると。しかしながら、田母神氏はその核の問題について別の視点から切り込んだ持論を展開されました。なるほど全世界が「もたないつからない、もちこませない」であれば本当の平和に近づくかも知れません。ですが、

現実はそうではないのです。いろいろな思惑や策が渦巻く外交において、「力」が必要であると氏は主張されました。ただ、決して好戦的だということではないということです。理想を掲げつつも、冷静に現実を見据えておられる気がしました。

このような考え方方に触れ、驚きを隠せない時間でありました。自分自身を「危険人物」と称しながら、実は日本人の「誇り」と「危険」をよくお考えになつてゐる田母神俊雄氏。忘れない、充実した研修会となりました。

研修会は、竹島領土平安祈願祭から始まりました。斎主を島根神青副会長の青義親氏が務められ、祭員五名の奉仕にて祭典が斎行されました。厳かな神事の中、この祈願祭の趣旨である「すみやかな領土権の確立と日韓の眞の友好平和が訪れますように」という思いを、祭典参加者一同が共有し、真摯にお祈りしました。

その後、開講式に続いて、参議院有村治子先生による「領土問題と我が国の未来」という演題のご講演がありました。先生は、出産後三ヶ月



一日目 吉備津神社に正式式参拝

竹島と時局問題

(3) 平成23年3月15日

月で体調が十分でない身を押して「竹島の日」に合わせて、「なんとしても伝えていかなければいけない」との思いでお越しくださいましたのでした。講演内容は、先生が領土問題を我々の生活に直面した喫緊の重大問題として、紹介されました。それは、あくまでも真剣に取り組まれるようになつた、契機になつた言葉を紹介されました。それは、あくまでもドイツの法学者の「領土の一部を失つて黙つている者は、領土の全部を失う危険性を負つてゐる」という言葉であつたとのこと。まさに我が国が置かれている現状そのものであり、日本の領土の一部が、韓国によつて不法占拠されている現状について、我が国の安全保障の危機であり、単に地方の問題ではなく、主催者の根幹に関わる重大事であることを、情熱をもつて語りかけられました。

番について、「今一度、我々はこの歌詞に込められた思いについて、今は唄わなくなつて久しい三番・四番について、「今一度、我々はこの歌詞に込められた思いについて、今は唄わなくなつて久しい三番・四番について、しつかりとした正しい見識を持ち、それを啓発していく使命があるとともに、神職の本分である神祭り、祭祀を専らとし、日韓の文化をめぐらす座談会が行わ
れました。岐の島町久見在住の八幡昭三氏による、文献上では窺い知れない、現地に行つた人となり、別会場にて有村先生を囲んで懇親会が行われ、全日程が終了しました。

みならず、ロシア、中国など
各国との間に抱えている諸
問題、軋轢も、神ながらのま
にまに、本来の有りように正
され、導かれますよう、神々
の実現と、共存共榮がな
されていくよう、心を新たに
して、神勤に努めて行かなければならぬと決意した次
第です。　（櫃田脩介）

国民祭典に参加

ればならないと決意した次第です。
（櫃田脩介）

たことを非常に光栄に思
ます。 （後藤裕里香）

平成二十二年二月二十七日、鳥取県神社庁にて鳥取県神道青年会としては初開催となる祭式研修会及び神社庁御神前清掃奉仕を行いました。講師には東井神社宮司田中倫明先生を迎え、最も基本的な作法について指導して戴きました。

いくことで氏子の皆さんのが々神職に対する見方は大きくなってくるものだと思います。基本的なことですが非常に重要な意識を今回研修にて県内青年神職全體として共有できたことは大変意義深いと感じております。来年以降も積極的に開催していくたいと考えております。

A black and white photograph showing a group of approximately ten people in traditional white kimonos and black belts, kneeling on a tatami mat. They are all holding long, thin wooden swords (shinai) vertically in front of them. The setting appears to be a traditional Japanese room with sliding doors in the background.

特に正坐をした時、笏ぼんぱりを持った姿は、神主の基本姿勢であり、常に心がけて、神前奉仕することが大切であると感じました。



神殿祭に向けての清掃奉仕

研修会に参加して

去る六月二十日(日)当会の隔年行事である「史跡めぐり」事業を実施しました。会員やその家族、氏子の皆さんなどとの交流と自己研鑽を図ることを目的とし、日帰りでできる範囲で史跡名勝を巡るというものです。今回はNHK大河ドラマで大人気の高知土佐へ行ってまいりました。



白砂と青松の桂近

高知の一宮さん土佐神社
正式参拝、桂浜見学、龍馬で
あい博会場へといった行程で
す。当初は大型バス一台を予
定しておりましたが、話題の
スポットでもあり、また西部

西部青年神職會



於士佐神社

平成二十二年は、個人的に以前にも増して「日本語」に興味を持つた年であるといえます。その理由は書籍「日本人の知らない日本語」、なぞかけブーム等の要素が重なりあつた年でもあります。たからなのです。

コミックエッセイである「日本人の知らない日本語」は、普段我々が使っている言葉の起源・発祥を面白く紹介しています。その中には昔の日本文化が背景にある

神道において使われる言葉や漢字はいづれも難解なものばかりです。しかしながら、それらを現代の方々に分かりやすいよう説明し、社頭講話や普段受け答えをする質問等に「日本語のおもしろさ・奥深さ」を織り交ぜて発信できれば、また、「神社に行つて、こんなこと『うんちく 薫蓄くんしょく』を聞いた」と言つてもらえれば、と思いながら勉強する毎日です。

鳥取県神道青年会会報

片道四時間余りという長旅で行程的にもハードなスケジュールで皆さんお疲れのことだつたと思いますが、今回も無事終えることができほつといたしました。

(来海紀彦)

編 集 後 記

鳥取県神道青年会会報の完成、嬉しく思つておりま^す。同時に作成に関しまして、多くの方々のご助力、誠にありがとうございました。

気がしてなりません。

ものがあります。読んでいて、知らなかつたことや再確認したことについて「へー」となるほどという声が自然と出ていました。そのようなコミックエッセイが人気であつたり、言葉遊びであるなぞかけが流行したりする背景には、日本人の「正しい日本語を使いたい、日本語について知りたい、今と昔の日本語の違いについて知識を持ちたい」という思いがあるようないました。

りでした。片道四時間余りという長旅で行程的にもハードなスケジュールで皆さんお疲れのことだつたと思いますが、今回も無事終えることができほつといたしました。

「なるほど」という声が自然と出ていました。そのようなコミックエッセイが人気であつもの、神道や仏教から発したものがあります。読んでいて、知らなかつたことや再確認したことに関して「へー」